

# 幼児における行為の原因帰属に対する社会的影響力の評価についての研究 (中間報告)

九州大学 石川 勝彦

## Child's evaluation of the effect of communication on identifying the meaning of other's action

Kyushu University ISHIKAWA, Katsuhiko

### 要 約

他者の行為の意味を同定するプロセスには、他者の行為意図を推測する側面だけでなく、行為の原因を帰属する側面も含まれる。行為選択に先立って、相互作用する他者からなんらかの働きかけがあった場合には、行為は行為者の自発的な選択であるだけでなく、他者からの社会的影響力によって駆動されている可能性が高まる。本研究は、行為の原因を、どのような場合に内的ないし外的要因に帰属すべきであるかを推論する能力の発達を記述することを目的とする。本稿は、研究の中間報告として、最近の行為の原因帰属に関する先行研究を整理したうえで、研究の目的と方法をまとめた。

【キー・ワード】 行為, 原因帰属, コミュニケーション

### Abstract

On identifying the meaning of other's action, we not only do it through inferring the intention of actor but also attribute the cause of the action to dispositional factor, or situational or social factor. In the case in that target action follows with the communication with another person, it might be valid to attribute a cause of the action to social impact of the preceding communication. The present research aims to exam the ability or bias for children to attribute the cause of the action adequately based on evaluating the effect of the situation in which the action is selected or the communication preceding with the action. This paper reviewed the findings about the development of child's ability to evaluate the cause of action and showed the aim and method of this research.

【Key words】 action, causal attribution, communication

## はじめに

行為の意味同定はどのような推論プロセスによって行われるのだろうか。これまで、幼児期から行為者が産出する行為の意味を「行為者の心」の観点から同定していることがあきらかにされてきた。誤信念課題を嚆矢とする心の理論課題は、行為者の知識状態を、彼の置かれている環境と当該環境下で生じた行為選択の関数としてとらえ推測する能力の発達を問うものであった。また模倣認知の研究からは、幼児期から模倣すべき行動成分の析出を、模倣対象の行動意図を探ろうとする推論によって実行しうることが確かめられてきた。

このように行為の意味は行為者の心の観点から同定しうる。しかし、行為の意味の推論は、行為の生起文脈との関連性を見積もるプロセスを含む。つまり、任意の行為選択が、他者からの働きかけや相互作用場面などの外的要因によって駆動されているのか、あるいは行為者の傾向性などの内的要因によっているのか、さらには両要因の相互作用によっているのかを推論している (Kelly, 1967)。こうした社会的・外的要因を考慮した行為の原因帰属は、しかし、考慮すべき要因を偏りなく検討したうえで理論的な整合性を具備して下されるのでは必ずしもない。たとえば行動を制約する状況要因に十分な注意が払われず傾向性に帰属されやすいなど、いくつかの帰属バイアスがかかる傾向にあることがあきらかにされている (Ross, 1977)。そのほかにも、自己の成功を自己の能力に帰属する判断バイアスについては、これが文化的な背景のいかんによって強度を異にすることもあきらかにされている (Fry & Ghosh, 1980)。このように、行為の原因帰属に関する推論は、必ずしも論理的に整合的であるわけではなく、さまざまなバイアスのもとにあるのだが、原因帰属が一定の傾向性をもったものとして学習されており、他者の行為を評価するさいに実行的であることは言を俟たない。

では、幼児において、行為の原因帰属はどのように獲得されていくのだろうか。情報提供者の信頼性判断の能力を検討した研究が一定の貢献を行っている。信頼性判断とは、複数の情報提供者が異なった情報を提供した場合に、どのような要因を考慮して正しい情報・情報提供者を選択するのか、その発達的变化を記述する研究領域である。

これまでの研究から、3-4歳からインフォーマントの、過去の情報提供の正確さを考慮したうえで他者の知識の正確さを適切に評価することができることが示されている (Birch, Vauthier, & Bloom, 2008 ; Einav & Robinson, 2010 ; Koenig, Clement, & Harris, 2004 ; Koenig & Woodward, 2010)。

しかし、情報提供者の知的コンピテンスは必ずしも内在的なものとは限らない。つまり、たとえば、偶然に高いパフォーマンスを示しただけかもしれないし、逆になんらかの制約がパフォーマンスを下げていたのかもしれない。そのような場合には、生じている制約の影響を割り引いた評価を行わねばならない。4-5歳は、視覚情報にアクセスできないがために誤った情報提供者にたいして、そのことを考慮して、その後信用することができることが示されている (Nurmsoo & Robinson, 2009 ; Robinson & Nurmsoo, 2009)。さらに、他者からの情報援助を得られることによって正確な情報提供をした場合、つまり正確であった理由が情報提供者の傾向性にあるのではなく、援助という社会的要因にある場合に、選択的に信頼をとりさげることが4歳から可能になることが示唆されている

(Einave & Robinson, 2011)。

では幼児は、情報提供者に対するコミュニケーションの社会的な影響があいまいであるような場合、その曖昧性を検出することはできるのだろうか。一般にコミュニケーションにはさまざまな不確実性が潜伏している。送信者のメッセージが受信者に到達するかどうか、メッセージのなかから送信者がこめた情報意図が適切に理解されるかどうか、メッセージの伝達にこめられた遂行的な社会的影響が実行力を持つかどうかなどは、必ずしも送信者の意図どおりに実現するとはかぎらない（ルーマン, 1984）。こうしたコミュニケーションの不確実性を適切に評価する能力を直接に取り扱うことによって、コミュニケーションのもつ行為への社会的影響力を評価する能力を適切に検討することができる。

本調査では、幼児が他者の行為の意味を同定するさいに、行為に先立って行われるコミュニケーションの社会的影響力を適切に評価する能力の発達的变化を記述することを目的とする。

## 方 法

動画刺激を用いた実験を行う。動画刺激において、まず、テーブルに二つの箱がおかれている。男性が画面の左側からあらわれ、二つの箱のうちどちらか一方に親近なアイテム（犬のぬいぐるみ、ボール、バスの模型、ミッキーマウスのぬいぐるみ）を一つ隠し、ふたを閉め、入ってきた方向へと退出する。その後二人の人物が画面の右側からあらわれる。ふたりのうち一人が他方の人物に対して情報提供を行う。その後、情報提供を受けた人物はアイテムが隠されている箱を正しく言い当てる。このシークエンスを幼児に提示したところで、「〇〇（アイテムの名称）がこっちに入っているのを知っていたのは誰かな。このひと（情報を提供した人物）、それともこのひと（情報をうけた人物）、それとも二人ともかな」と尋ねる。

情報提供者の伝達行動を操作して、情報受信者の正答にあたる社会的影響の確実性を操作した。具体的には、伝達行動を4パターン準備した。

1. 言語伝達条件：情報提供者は情報受信者に対して、正答の箱を指差しながら「こっちに入ってる」と言語的に明示する。受信者は提供者に対して2度うなづいたのち正答の箱を指差しながら「こっちに入ってる」を発話する。
2. みみうち-ジェスチャー条件：情報提供者は情報受信者に対して、みみうち行動を示す。重要なことだが、みみうちの内容は被験児には聞こえないように作成されている。その後の受信者の行動は言語条件に準ずる。
3. アイコンタクト条件：二人の人物は顔を見合せながら2度同期するタイミングでうなづき合う。その後の受信者の行動は言語条件に準ずる。
4. 伝達なし条件：二人の人物が登場したのち、伝達行動は行われず、うち一人の人物が言語条件に準ずる正答する行動を示す。この条件は伝達行動の不確実性の効果を取り出すためのコントロールとして設けた。

言語伝達条件は、送信者の伝達意図および情報意図が明示されており、受信者の正答が送信者から

の情報援助に依存している可能性が高い条件として設定した。しかし、受信者の正答が送信者の情報援助に確実に依存しているとはいえない。なぜなら、当該動画において、受信者があらかじめ正答を知っていた可能性を否定する根拠は示されていないからである。

みみうち条件は、伝達意図は明示的であるが、被験児に発話内容が聞こえないため、情報意図があまりない。よって言語条件にくらべ、送信者の行動の情動的影響の不確実性が高い条件として設定している。アイコンタクト条件では二人の人物は言語的コミュニケーションを行わないため、情報伝達が行われた可能性が否定されている。よって情動的影響が実効的であった可能性が極めて低い条件として設定している。

## 引用文献

- Birch, S. A. J., Vauthier, S. A., & Bloom, P. (2008). Three- and four year-olds spontaneously use others' past performance to guide their learning. *Cognition*, 107, 1018-1034.
- Einav, S., & Robinson, E. J. (2010). Children's sensitivity to error magnitude when evaluating informants. *Cognitive Development*, 25, 218-232.
- Einav, S., & Robinson, E. J. (2011). When Being Right Is Not Enough: Four- Year-Olds Distinguish Knowledgeable Informants From Merely Accurate Informants. *Psychological Science*, 22(10), 1250-1253.
- Fry, P. S., & Ghosh, R. (1980) Attributions of success and failure: Comparison of cultural differences between Asian and Caucasian children. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 11, 343-363.
- Kelly, H. H. (1967) Attribution theory in social psychology. In D. Levine (Ed.), *Nebraska symposium on motivation*, Lincoln: University of Nebraska Press. 15 192-238.
- Koenig, M. A., Clement, F., & Harris, P. L. (2004). Trust in testimony: Children's use of true and false statements. *Psychological Science*, 15, 694-698.
- Koenig, M. A., & Woodward, A. L. (2010). Sensitivity of 24-montholds to the prior inaccuracy of the source: Possible mechanisms. *Developmental Psychology*, 46, 815-826.
- Nurmsoo, E., & Robinson, E. J. (2009). Children's trust in previously inaccurate informants who were well or poorly informed: When past errors can be excused. *Child Development*, 80, 23-27.
- Robinson, E. J., & Nurmsoo, E. (2009). When do children learn from unreliable speakers? *Cognitive Development*, 24, 16-22.
- Ross, L. D. (1977) The intuitive psychologist and his shortcomings: Distortions in the attribution process. In L. Berkowitz(Ed.), *Advances in experimental social psychology*. 10 174-221. New York: Academic Press.
- ルーマン, N (1984) *社会システム理論* 世界思想社.